科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	漢文学Ⅰ The Chinese Classics I			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 准教授　永田　知之
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

この授業では中国の、主に唐代（618～907）より前の短編物語を読む。一口に中国の短編物語と言っても扱う題材は極めて幅広いが、ここでは犯罪、あるいは裁判に関わる作品を対象とする。現代につながる推理小説は、一般に19世紀の西洋で成立したと考えられている。それらと推理・犯罪を主題とする中国の古典的な物語とは、ある部分では共通の側面をもつが、その一方で異なる点も少なくない。現代の推理・犯罪小説を読み慣れた人々から見れば、内容が単純で描写も粗雑に感じられるかもしれない。

ただ事件の提示、官憲の探索などを通じたその経緯の特定、犯人の摘発、時に裁判の過程を含む叙述から成る点は、今日の推理・犯罪小説と少しも変わらない。事件の発生で平穏な日常が大きく変化して人々が右往左往する姿は、いつの時代にも共通のことである。歴史書などに記録が残りにくい庶民の生活がやや詳しく描かれているのも、このような物語の特徴と言える。そういった意味で、そこに見られる記述は現代人にもごく身近に感じられ、我々をしばしば感心させもする。ここではそれらの中から、特に興味深く思われる物語を選んで読み進めていくことにする。

このような読書体験を共有し、漢文を比較的自由に読みこなす読解力を高めること、それが授業の目的である。

後期に開講される「漢文学II」（担当教員：永田知之）をあわせて受講することが望ましい。

[到達目標]

・漢字についての、深くかつ広い知識を習得する。
・漢語についての理解を深める。
・前近代中国の思想・習慣を広く理解する。
・古典の文章を厳密に読み取り、正しく解釈する。
・人間の言語・会話について、何が普遍的で、何が個別的なのかを考察する。

[授業計画と内容]

第1週　ガイダンス
第2～14週　唐以前犯罪関連短編物語選読

テキストとして句読点などを付すだけで、返り点・送り仮名の無いプリントを配布し、受講者には毎回それを訓読・訳読してもらう。訓点に頼らず、文章の構造を理解しつつ、漢文（中国語古典文）を読解する力を身につけてほしい。また、これとあわせて当時の時代背景についても言及する。

犯罪・裁判に関わる物語を集めた説話集をテクストに用いるが、さらにそれらと元になった資料の記事とを比較することで、叙述における態度の相違や各文献の独自性をも考えたい。この講義を通じて、古典漢文を味読する過程を体験してほしい。

漢文学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

漢文学Ⅰ(2)

[履修要件]

毎回予習をする余裕のある者。

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席状況・授業中の発表、討論への参加）と期末試験（筆記）の点数を組み合わせて評価する。評価の6割は平常点、4割は期末試験による。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

漢文を読むには漢語を知らなければならないから、この授業では語彙や文章の構造についてはできるだけ詳しく解説するつもりであるが、受講者が自ら漢和辞典を引いて分かることまでは説明しない。従って予習の段階で分かる部分と分からない部分とを区別し、自分なりに内容を理解した上で授業に参加してもらいたい。

[その他（オフィスアワー等）]

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。担当教員の研究室を来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。メールアドレスは初回の講義で指示する。